

手術室PACS参照モニタ埋め込みユニット
ご紹介資料

菱電商事株式会社 ヘルスケア事業部

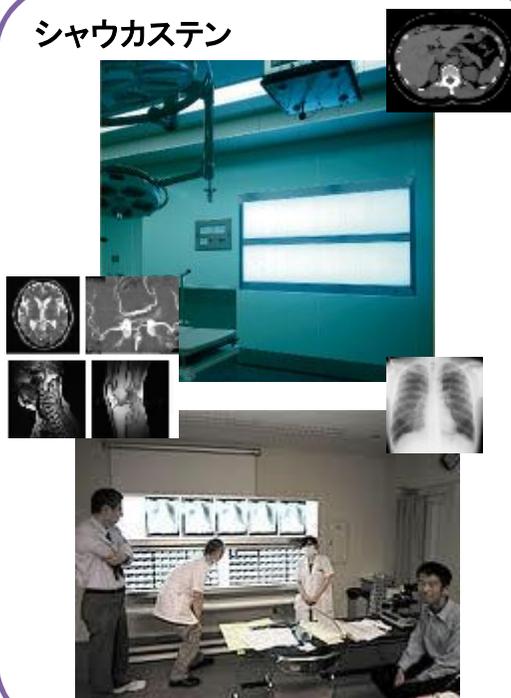
はじめに

フィルムからデジタルへ

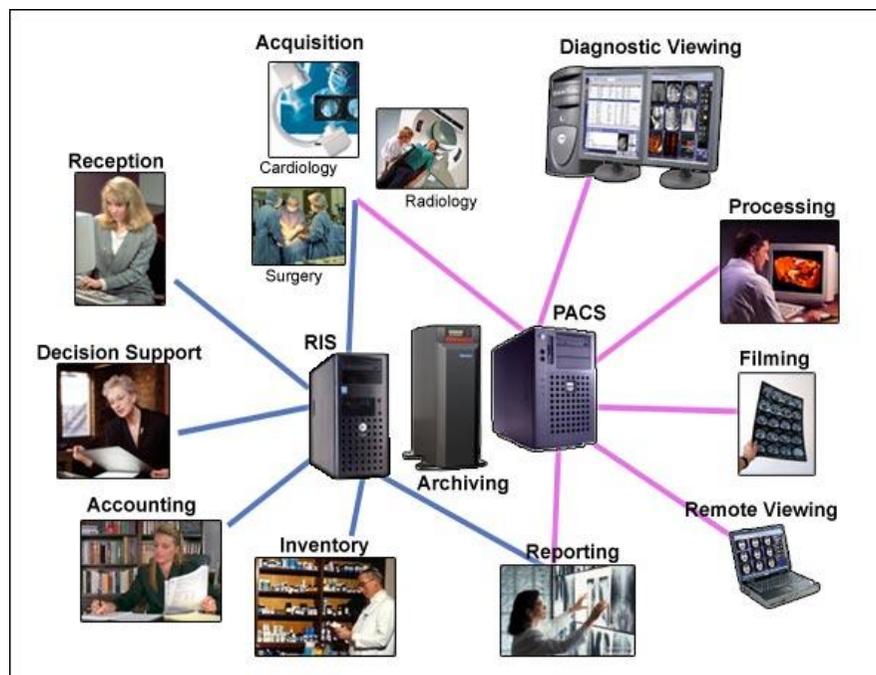
従来は画像診断装置で撮影した画像をフィルムに焼いて診断・参照していたが、近年は撮影画像をデジタルデータ化しサーバに保管しコンピュータで表示する方法が増えている。

このデジタル画像の保管配信と画質を定めた規格がDICOM(ダイコム)といい、システムをPACS(パックス)という。また、従来の撮影フィルムを参照するための光源装置をシャウカステン(シャーカステン)といい、近年のPACSによる画像を参照するためにはDICOM規格に準拠した医用画像用の液晶モニターが必要である。

シャウカステン



PACS



はじめに

シャウカステンから医用モニタへ

読影室や診察室ではシャウカステンの代替えとして医用モニタが普及し、2M~5Mピクセルの高解像度モニタが設置されている。

しかしながら、手術室ではシャウカステンが壁に埋め込まれているため取り外しが困難で、使用頻度が少なくなっているにもかかわらず放置されている状態が多い。

医用モニタをワゴンに搭載してPACSを参照する例も多くみられるが、手術室スペースの問題から邪魔になっている場合が多い。

また、専門業者に依頼しシャウカステンを取り外し、設置工事を行う場合もあるが非常に高額になる。

そこで、菱電商事では省スペース・低コストな「手術室PACS参照モニタ埋め込みユニット」を開発しました。



「手術室PACS参照モニタ埋め込みユニット」ご紹介

特長

1. 一般的なシャウカステンと同じサイズ(半切3枚掲示)である。
W:1185mm × H:1045mm × D:188mm
2. ユニット内に46型モニタ及びPCを収納可能
3. LAN配線、電源設置が可能。
4. 手術室気密を高めるためユニット内に開口部なし。
5. 前面をアクリル板で保護し清掃・消毒可能。
6. 不使用时にはフラップ式蓋を閉じ突起物なし。
7. 使用時はフラップ式蓋が棚板となり
キーボード・マウス操作可能。
8. モニタ不具合時も全面から交換可能。



施工方法

①シャウカステン取り外し

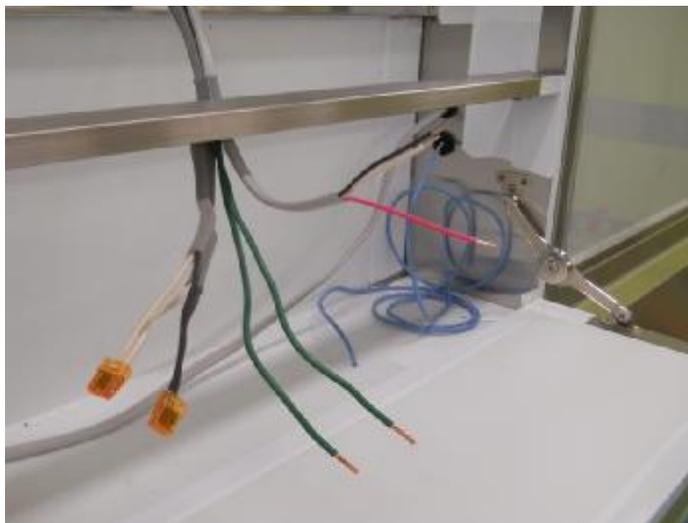


②ユニット取り付け、気密性確保



施工方法

③LAN配線・電源工事



④モニタ取り付け、PC設置



施工方法

⑤ アクリル板設置、コーキング



⑥ 完成



完成写真



機器構成



手術室埋め込みユニット



46型液晶モニタ(簡易DICOM対応)



設置工事・電源工事・LAN工事